

ヨハネによる福音書 10 章:11-18 節 & 27-31 節

私は良い牧者です。

10:11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。 **10:12** 牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。

10:13 それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。

10:14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。

10:15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。

10:16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、ひとりの牧者となるのです。

10:17 わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。

10:18 だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

10:27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。 **10:28** わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。 **10:30** わたしと父とは一つです。」 **10:31** ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。

今日は、ヨハネの福音書にある7つのイエス様による I Am.. 「私は永遠の神の子です」と言う断言のうち4番目についてお話します。イエス様は、
出エジプト記**3:14** 「わたしは、『わたしはある。』 」と言う神様の名前を自分に対して使っています。

先週までに「私は命のパンです。」「私は世の光です。」「私は門です。」についてお話しました。また先週は、このヨハネの福音書10章の前の部分にあるイエス様の例え話の中で、ご自分が羊の門であると同時に羊飼いだと言われたことお話しましたが、その際は主に門の意味とその役目を見ていきましたので、先週と少し重なりますが、今週は主に羊飼いの意味とその役目を見ていきましょう。

1. 私達の為に命を捨てて下さる良い牧者である (11 節)

10:11 「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」

イエス様はご自分から、私達の為に命を捨てるという事はご自身が本当の良い牧者である証拠の一つであると言っています。そしてこの箇所を繰り返して言って強調しています。

10:15 「それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨てます。」

10:18 「だれも、わたしから、いのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」

イエス様の十字架は本当の良い牧者の証拠でありながら、私達に対する最大の愛の証拠です。別の箇所ではイエス様は弟子達に最大の愛について教えました。

ヨハネ15:13 「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

ですが、イエス様はそれよりも大きい愛を十字架で見せて下さいました。「父よ、彼らをお赦して下さい」と祈った時に敵を愛して赦したように、私達はまだ罪人で、敵であった時にイエス様が代わりに死んで下さったのです。

それはイエス様の生まれた最大の目的です。最初のクリスマスに生まれた赤ちゃんのイエス様と十字架の上で私達の身代わりとして死んだイエス様を切り離してはいけません。

今日の箇所の**18節**でイエス様は、強制的にではなくて、私達を救う為に自分から進んでそれを選んでくださったと言っています。

マタイの福音書の記録を見ると、イエス様が逮捕される時にペテロが剣を取ってイエス様を守ろうとしたところ、イエス様は「剣をもとに収めなさい...私が父にお願いして十二軍団よりも多くの御使いを自分の配下に呼ぶ事が出来る事を知りませんか?」と言いました。

神様の計画の中でイエス様が十字架で死ぬ時が来るまで、誰もイエス様に対して何も出来ませんでした。今日読んだ箇所の最後の**31節**にも書いてあります。

10:31 「ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。」

また石を取りました。そして何回も、イエス様を殺そうとしましたが、逮捕すら出来ませんでした。イエス様の言葉の力によって逮捕せず帰って来て、なぜ、連れて来なかったかと言われた時に、その人たちは「あの人が話すように話した人は、今だかつてありません。」と認めざるを得ませんでした。これ以外でも、イエス様の言葉の力の事例が沢山記録されていますが、その中の一つだけを見てみましょう。

ヨハネ18:4 「イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出て来て、「だれを捜すのか。」と彼らに言われた。

18:5 彼らは、「ナザレ人イエスを。」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです。」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一しょに立っていた。**18:6** イエスが彼らに、「それはわたしです。」と言われたとき、彼らはあどすさりし、そして地に倒れた。」

6節に「それはわたしです。」とあります。イエス様の答えは原語で「わたしは、『わたしはあゝる。』」という神様の名前を使って言いましたが、日本語でも英語でも、不自然に聞こえるため、自然の会話の形に訳されました。永遠の神の子として一つの言葉だけで全能の力を働かせる事が出来るため、イエス様のその言葉だけで皆倒れてしまいました。

2. 心にかけて決して捨てない良い牧者である。

10:12 「牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。」

10:13 それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。**10:14** わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。」

イエス様はここで、ご自分にとって一人一人がどんなに大切なものかを強調して説明しています。雇人を自分と比べて何が違うかと言うと、私は一人一人を心にかけています、と言われています。私達にとってこれが分かる事がとても大切です。私達には、「神様は本当に私の気持ちが分かっているのか」と思う時が必ずあります。神様は冷たくて自分の事を何も気にしていないと思う時があります。

聖書で神様が一番繰り返して命令しているのは、「恐れてはいけない、その上に平安でいなさい、いつも喜んでいなさい」ということです。こう命令しているのは、明らかに私達の気持ちを気にかけて下さっているからです。

先週のメッセージで守りの門と備えの門についてお話した時に、イエス様は自分の羊をその名前で呼んで先頭に立って導く話をしましたが、少しだけ付け加えてお話ししましょう。旧約聖書の出エジプト記では、彼らは集団として雲の柱と火の柱で導かれました。誰でもそれを読む時、自分も経験してみたいと思うでしょう。いつでも、頭を上げれば雲の柱を、夜には火の柱を見れば、神様が共にいて下さっているのを確かめることができるのは凄い事です。でも、イエス様の信者には、もっと素晴らしい事が与えられています。旧約聖書ではモーセや、その他とても限られた人だけが神様と親しい個人的な関係を許されました。ですが、イエス様の十字架の血による新しい契約によって、全ての信者にそれが与えられています。「わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。」一人一人のイエス様の信者は個人的な親しい関係の中で導かれるのです。

ヨハネ10:27 「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」

もちろん、最初のうちは聞き分けにくい時もありますが、従って行けば行く程、聞き分ける親しい個人的な関係になります。個人的に御声を聞くよりも、もっと素晴らしい、もっと親しい関係はありません。御声を聞く事によってイエス様は誰よりも自分の事を深く知ってくださっていて、導いて下さっているという事が分かるようになります。

雇人の話にもどりますが、彼らは「狼が来るのを見て、羊を置き去りにして逃げて行きます。」とありますが、イエス様の約束は、「何があっても、私はあなたを置き去りにしません。自分の命を捨てる事によって、あなたを私のものとして罪から買い戻しました。あなたの罪の代価として私の命ですべてを払ったのだから、どんな時でも、絶対にあなたを捨てません」と約束しています。置き去りにしないだけでなく、敵が立ち向かって来ても、必ず守ります、と約束して下さっています。その守りは凄い事で余裕を与えて下さいます。神様は敵の前で守ってくださっていると同時に、全ての必要を満たす事によって安心させてくださいます。詩編23篇は全ての信者の証になります。

詩編23:5 「私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。

23:6 まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。」

この詩編は世界中で一番愛されている詩編です。「主は私の羊飼い。私は乏しい事はありません。」から始まって、必要な物は全て、与えられるだけではなくて、余裕を持てるほど、守りと必要が与えられるのです。1節から6節まで、短い詩編なので、全てのクリスチャンにこれを暗記する事をお勧めします。

3. 良い牧者は私達の永遠の保証である。

今日、最初に読んだ聖書箇所、強い確信を与えるイエス様の永遠の命の保証があります。もちろん、これも全ての信者が暗記すべき約束です。詩編 23 編をまだ暗記していないなら、是非ヨハネの福音 10:28-30 を先に暗記してください。

Johnヨハネ10:28 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

10:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。

10:30 わたしと父とは一つです。」

この箇所にもイエス様は曖昧な言葉を一つも使わず、とてもはっきりした言葉を使って断言しています。「彼らは決して滅びる事がなく」と言うようにです。先週も言いましたが、イエス様は一度も、「そうかも知れない」とか「多分」のような言葉を全く使う必要がないのです。

2nd Corinthians コリント第二 1 : 20 「神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言い、神に栄光を帰するのです。」
自分の口でその約束に対してアーメンと言ったら、つまり、それは「真実だ」と心から言ったら、そして自分の生き方をそれに合わせるなら、個人的な確信としてその約束が与えられます。いくら神様の約束は全て真実だと頭で分かっても、それを実行するまで、自分の体験として証明されていないままの頭の知識だけになってしまいます。語学と同じように、いくら勉強しても実行するまで、自分の物として身に付きません。

イエス様の確信に溢れる言葉に明確な保証が含まれています。「彼らは決して、滅びる事がなく、」と言っている続きを見て下さい。

10:29 「わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。」

全てのイエス様の信者には最強の味方がいます。最終的に負ける事はありません。途中で負けそうになる事はいくらでもあります。諦めなければ、信じ続けるなら、神様は最善の時に最終的に必ず勝利に導いて下さいます。何とかぎりぎり、ではなくて私達を圧倒的な勝利者として導いて下さいます。使徒パウロは同じ事をもっと詳しく説明しました。

ローマ人 8:31 「では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」

敵対しようとする者はいくらでも現れますが、私達の最強の味方に勝てないから、勝利は保証されています。その聖書箇所続きを見ましょう。

8:35 「私達をキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」

8:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。8:37 しかし、私たちは、私達を愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私達を引き離すことはできません。」

言葉では足りないくらい、使徒パウロが言い尽くせなかったキリストにある神の愛に対する確信です。イエス様はその保証です。

ヨハネ 10:30 「わたしと父とは一つです。」

ここでイエス様は自分が神様のひとり子として父なる神様と全く同じですと言っています。後で繰り返して言いました。

ヨハネ 14:9 「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。」

まとめ

第二コリント 9:15 「ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。」

いくら感謝しても、こんなに素晴らしい救い主を感謝しきれません。私達は永遠に天国でも、イエス様のゆえに感謝し続けさせていただきます。イエス様だけがそれにふさわしい救い主です。